

# 登戸学寮ニュース

第14号 2023年5月10日発行

## —新年度を迎えて—

理事長 小島拓人

登戸学寮は今年で創立65年を迎えますが、この間の卒寮生は累計760名余となります。そして今年も4名の卒寮生を社会に送り出しました。卒寮生と学寮との関わり合いとなりますと色々な形での繋がりがあります。

公益財団法人としての登戸学寮は理事、監事、評議員の役員の方々は総数30名弱ですが、今やその3/4はシニアとヤングの卒寮生です。また寮友会の役員として寮友会の活動を担って頂いている方々がおられます。毎年11月のホームカミングデーでの交流もあります。昨年より始めたキャリアフォーラムと称する卒寮生が職業経歴と人生経験を語る寮生との交流の場（本ニュースで関連記事を掲載）もあります。毎年発行される「方舟」に投稿して文章で寮との繋がりをして頂ける卒寮生もおられます。数は多くはありませんが、学齢年齢に達した子女を学寮に送り込まれる方々もおられます。不思議なことに長年連絡不通の卒寮生で突然子女を学寮に送り込まれる方もあり、連絡不通というのは必ずしも寮との断絶を意味するものではないという教訓です。また、学寮に関わる具

体的な行動はなくても同期の会の開催等で学寮との繋がりを留めておられる卒寮生の方々が少なからずおられるものと認識致しております。この様に卒寮生と学寮の間には65年の年月が積み重なったコミュニティが形成されています。黒崎幸吉賞はその一つのハイライトです。

卒寮生を送り出す先の社会ですが、日本も世界もこの3年間は新型コロナウイルス災禍に振り回されてきました。そしてこの一年間、ロシアのウクライナ侵攻で、世界は大きく揺れ動き、世界史に大きな時代の転換期が予見されている今日です。そうした中でも、春の到来とともに学寮は今年も新入寮生を迎える季節となりました。新年度の期初の寮生数は38名（定員39名の97%、昨年より3名増）で、フレッシュな新入寮生12名を迎えて学寮は今年も新しい歩みを始めました。「汝ら、若き日にその創造主を憶えよ」との精神的指針の下に、健全なる判断力と確固たる責任感を有した人材育成を目指す登戸学寮の使命は不動であります。世界がどの様に揺れ動いている中であっても「揺れども沈まぬ」希望の下に新年度を迎えたく存じます。

## 特集 寮生いろいろ／新入寮生紹介

新年度を迎えて	…… 1	寮生活動支援報告/ロンドン滞在記	…… 7
近況報告・在学大学等名	…… 2	理事会・評議員会報告	…… 8
新入寮生いろいろ/新入寮生紹介	…… 3	2023年度予算書	…… 9
聖書の言葉	…… 4	卒寮生インタビュー	…… 10
黒崎幸吉賞授賞式/HCD	…… 5	寮友会報告/コラム 永井荷風の俳句	…… 11
寮生の活動いろいろ	…… 6	寄附者ご芳名	…… 12

# 近況報告

様々な変異株が出現したものの、この5月からは5類感染症に区分され季節性インフルエンザなどと同様の扱いとなる新型コロナウイルス感染症ですが、昨年7月以来11月までは寮生に感染者は見られませんでした。11月に1名、12月に3名（うち1名は帰省先で発症）、感染が確認されましたが、その後、現在まで感染者は出ていません。11月以降の感染者はそれまでの感染者と異なり、療養期間終了まで寮で過ごすことはなく、感染判明と同時に神奈川県に陽性者として登録し、県の療養施設での療養を希望すると2~3日のうちに療養施設へ搬送され療養するという仕組みを利用しました。各自基本的な感染対策は怠らず、空気清浄機の威力を頼りにまず換気、コロナ流行前の生活に戻ることを期待しつつ過ごしたいと思います。

2022年度は大半の大学が通常の状態に戻り、寮生も授業に課外活動にと忙しく過ごしていたようです。ほとんどの大学が対面授業となった一方で、就職活動はコロナ以前と変わり、オンラインでの適性検査や面接が一般化しているように見受けられます。黒崎幸吉記念資料室は背景に書棚が映り込み、落ち着いた雰囲気を感じ出すからでしょうか、オンライン面接会場としても活用されています。

まだまだ学生生活が続く人、楽しむ人がいる一方で、2022年度は4人が卒業を迎えました。韓国からの留学生Cさんは修士課程を修了し母国に帰り就職予定、農学研究科で研究の楽しさに目覚めたMさんも専門を生かした分野に就職、学部を卒業したSさんは証券会社のエコノミストとして、Iさんはろう学校の教員として社会への一歩を踏み出しました。今年度は2月11日（土）に卒寮式が行われましたが、こうした寮行事においても当然のようにオンライン参加が可能となり、遠方に住まう家族、卒寮生、役員方が多く参加して下さり、ごあいさつをいただくことができました。コロナ禍転じてこうしたテクノロジーの活用が促され、距離を

越えた登戸学寮への様々なつながりの可能性を期待したいと思います。

また、各方面で活躍する卒寮生から現在の仕事の様子、在寮時の思い出、職業選択にあたってのアドバイスなどをお話しいただくキャリアフォーラムの第2回目が2022年10月16日（日）午後、小学校教諭、宮崎聡子さん（2015年卒寮）を迎えて、また第3回目が2023年2月4日（土）夕方、漫画家、高橋陽介さん（2004年卒寮）を迎えて開かれました。各回ともにキャリアコンサルタントの国家資格を持つ福嶋美佐子理事が司会進行、また講演に先立ちキャリアとは仕事や職業といった狭義のものではなく、これまでに経験してきたこと、またこれから経験するすべて、そしてひとりひとり異なる生き方に関わることでありという本フォーラムの真髓を解説してくださいました。

第2回目講師の宮崎さんは千葉県教育公務員として小学校教諭7年目、学生時代から教職を目指し、アルバイトでも寮生活でも人と関わることを大切にしてきたこと、学校教育に対する使命感を持ち、やりがいを感じていることを伝えてくださる一方で長時間労働や自治体による教育環境の格差などの教育現場における深刻な問題も提起され、講演後は教員志望の寮生が個別に相談する姿も見られました。

第3回目講師の高橋さんは学生時代から漫画の仕事を始めプロとなり現在に至りましたが、才能の大切さと同時に制作過程における努力、デジタル化への対応、締め切りを守ることができなかったことはないといった具体的な勤勉さが現在につながっているというお話しはどのような職業にも通じるものであると思われました。リラックスした雰囲気の中で、活発な質疑応答を通じて漫画家への道、漫画家の収入など興味深いお話をうかがうことができました。キャリアフォーラムは今後も年に数回の開催を予定しています。千葉美佐子

## 寮生の在学大学等名（50音順・太字は新入寮生・2023年4月1日現在）

男子寮（24名）	女子寮（14名）
青山学院大学文学部、慶應義塾大学商学部、 <b>国士舘大学文学部</b> 昭和薬科大学薬学部、専修大学人間科学部、専修大学文学部（2名）、玉川大学農学部、 <b>帝京大学教育学部</b> 、田園調布学園大学人間福祉学部、東京大学理科一類（2名）、東京藝術大学音楽学部、 <b>東京都市大学環境学部</b> 、日本大学危機管理学部、 <b>HAL東京</b> （1名新入寮生1名）、PAZ Bible College、明治大学理工学部（2名）、明治大学大学院理工学研究科、 <b>和光大学現代人間学部</b> （1名、新入寮生2名）	青山学院大学文学部、恵泉女学園大学人文学部、 <b>国士舘大学文学部</b> 、聖マリアンナ医科大学医学部、洗足学園音楽大学音楽学部、 <b>玉川大学農学部</b> （1名、新入寮生1名） <b>東京大学文科三類</b> （1名、新入寮生1名）、明治大学農学部（2名）、明治大学理工学部、明星大学人文学部、和光大学表現学部

# 新入寮生いろいろ

4月に新入寮生12名を迎えました。  
「①大学や寮生活への抱負」、「②好きな○○」について聞きました。

## 石井裕人 岡山県

- ① 人生で一番楽しい時間を過ごしたい。
- ② 好きなこと：のんびりすること。

## 海老原薫 宮崎県

- ① いろんな人と仲良くなりたい。
- ② 好きなこと：音楽鑑賞・ゲーム・推し事

## 大友康 奈良県

- ① 楽しく過ごしたいです。
- ② 好きなもの：漫画、小説、スポーツ

## 金城明樹 沖縄県

- ① 積極的に話しかける。
- ② 好きなゲーム：Fate/Grand Order

## 佐々木拓海 神奈川県

- ① 今年中にハーフマラソンを走りきることに
- ② 好きな人：アーティストで家入レオさん

## 須貝真琴 山形県

- ① 新しいことに挑戦したい。
- ② 好きな言葉：豊かな感性を持つ人は足を地につけることができる。

## 関島樹 長野県

- ① 規則正しい生活を送り、楽しみたい。
- ② 好きな漫画：僕のヒーローアカデミア

## 高田聖也 北海道

- ① 規則正しい大学生活、信仰生活を送る！
- ② 好きなシリーズ：『おかあさんといっしょ』『仮面ライダー』『アンパンマン』

## 龍野実咲 東京都

- ① 精神的にも生活面でも自立する。
- ② 好きなお菓子：じゃがりこ

## 野田明伸 埼玉県

- ① 抱負…コミュニケーション力をつけたい！
- ② 好きなスポーツ：サッカー

## 浜崎航希 岩手県

- ① 楽しく4年間過ごしたい。
- ② 好きな教え：『郷に入っては郷に従え』

## 松井はんな 山形県

- ① 素敵な思い出をたくさんつくりたいです。
- ② 好きな人間：松井共生

## 新入寮生紹介 高田聖也

私は両親の影響で、中1の時に北海道の札幌市にある教会で洗礼を受けたプロテスタントのクリスチャンである。幼少期から教会学校やバイブルキャンプに参加したことで、すでに神の存在をぼんやりと信じていた。両親や教会員の方々から大きな愛情を注がれ幼心にも幸せだと感じていた反面、一人っ子として生活し続けることに寂しさも感じていた。そこで5歳の時、私は「神様、僕に弟か妹をください」と祈り、一年後かわいらしい弟がついに誕生した。私はこれを偶然の出来事として捉えておらず、むしろ必然だったのではないかと考えている。神から新しい命を授かるという原体験そのものが、私の信仰の源泉だからである。

帝京大学教育学部1年

だから教会に通うことや神に従うことを苦痛と感じたことは一度もない。私にとって弟の誕生とは「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」(マタイ7:7)という御言葉が成就された象徴的な出来事だった。ただし祈る際に必ずしも神の御心と自分の願望が一致するとは限らず、実際私も祈り求めて願いが叶った経験よりも、思い通りにならなかった経験の方が多い。それでも自分の想像をはるかに超えた神の壮大なプランが用意されていることに大いに期待しつつ、この寮での生活を謳歌しようと思う。



「愛は不作法をせず、おのれの利を求めず、いらだたず、悪を数えない」(1Cor.13:5)。

「聖書」は神がそこにおいてひとと共にある「旧い契約」と「新しい契約」に基づき編集された。それは神の意志の知らしめが「モーセの律法」「業の律法」から「キリストの律法」「信の律法」へと展開されたことに呼応する (Jer.31:31,Rom.3:27,1Cor.9:21)。学寮にもモーセ律法に比せられる寮則がある。寮則は生命に与りやすい「信仰的清純の環境」(設立趣意書)を備える改訂可能な生活の指針である。W.S.Clarkは札幌農学校一期生に「紳士たれ」とだけ語った。入寮のさい相互の信頼のもとに契約を交わし、約束に信実な正しい人であると信じ共同生活を始める。その信に基づく正しさの証明は愛の果実を生むことであり、相互に愛するよう努める。愛とは支配と被支配から唯一自由な場で生起する我と汝の等しさである。友と友、寮生と寮長等この等しさのもとにある愛の感情実質は端的な喜びである。そこでは共同生活は楽しく豊かなものとなる。寮長の喜ばしい職務は、寮生各位への神の愛の注ぎをその都度信じ、健康を守り、学業を支援し立派に社会に送り出すことである。これが信→義→愛(「義の果実」(Phil.1:11))の信の律法の本道である。細い真っすぐな光の道を仰ぎ見る。

そこでは数百の旧約律法は信の律法のもとの愛に変換され、感謝と賛美のうちに愛の律法を満たす。「愛を媒介にして働いている信が力強く」、「愛は律法を充足する」(Gal.5:6,Rom.13:10)。寮則「23時以降自由に食べてよい」は「食べた奴シバク」から「空腹な人に食べてもらえて嬉しい」に変換される。

学寮赴任のさい「寮生活が不適の場合には退寮することに同意します」という「誓約書」を見て驚いた。擬人化される罪は「神はそう言ったのか」とエヴァを誘惑する蛇のように、文字としての律法を好み寄生し、背きへと誘惑する。罪はモーセが石板に自ら刻み直した十戒の文字には寄生できる。「文字は殺し、霊は生かす。もし石の文字のう上に形成される死に仕える務めが栄光のうちに生じており、用いられなくなる彼の栄光の故にさえイスラエルの子らがモーセの顔を直視できないほどであるなら、どうして霊に仕える務めがいっそう栄光のうちにないことになるであろうか」(2Cor.3:6)。神にま見えたモーセの顔の輝きは東の間であり、輝きの喪失を恐れ「自分の顔に覆い



レンブラント  
十戒の石板を割るモーセ

をかけた」(3:13)。かくして、「誓約書」について「この伝家の宝刀をゆめゆめ抜いてはならぬ」という自戒は新たにひとを縛る文字となり、さらに、罪に負かされてしまうであろう。パウロは言う、「わたしは神によって生きるために、[信の]律法を介して[業の]律法に死んだ。わたしは

キリストとともに十字架に磔られてしまっている。しかし、もはやわたしは生きてはいない、わたしにおいてキリストが生きている」(Gal.2:19)。

イエスは旧約の伝統のもとで神の国の福音を実現しつつあるとき、「律法の一点一画とも廃棄されない」と語った(Mat.5:18)。この山上の純化された語りはモーセ律法の新たな機能が罪を知らしめ福音に導くことにあることを知らしめる。イエスは信の従順を貫き十字架上で人の罪を担い、信に基づく義の福音が歴史に打ち立てられた。山上の説教を満たしえない自己に苦しみ悔い改め信の律法に移行する。「神に即した苦悩は後悔なき救いに至る悔い改めを働く」(2Cor.7:10)。自己義認の生活様式のままの審判者が神の意志に即す悔い改めによりこの自己が御子とともに磔られたと信じ、解放され復活の主と共に歩みだす。

業の律法の適用のもとでは救われない姦淫者ダビデは悔い改めた。「働く者にはその報酬は恩恵によるのではなく、当然のものと看做される。しかし、働きのない者であり、不敬虔な者を義とする方を信じる者には、彼の信仰が義と認定される。ダビデもまた神が業を離れて義と認定するところのその人間の祝福をまさにこう語っている、「その不法が赦された者たちは祝福されている。そしてその罪が覆われた者たちは祝福されている。主がその罪を認めない者は祝福されている」」(Rom.4:4-8)。どんなに悪者であっても、神の憐み、恩恵は比較を絶する善であり、まっすぐな信仰を持つ者を義とする。その罪赦されたことの証は隣人を愛しうることにみいだされる(Luk.7:47)。 千葉恵

## 第2回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会

黒崎幸吉賞は、登戸学寮の創立者である黒崎幸吉のキリスト教主義に基づく全人格教育の精神を継承し、世の光としての社会活動を推進してこられた方に対し、その地の塩となる献身に対し感謝と支援の意を表するものとして2021年度に創設されました。第2回は岡崎新太郎氏（1967-71年在寮）と吉野裕氏（1990-92年在寮）が受賞され、2022年11月26日のホームカミングデイに前回同様、対面とオンラインでのハイブリッド形式で授賞式を行いました。

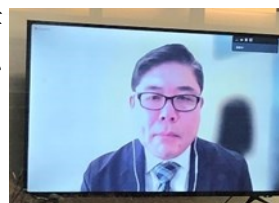


岡崎氏による講演

岡崎氏は、梅光学院第7代院長をはじめとしたキリスト教系学校での教育や日本キリスト兄弟団での信徒牧師としての伝道等、半世紀に亘り下関に根差した活動に従事されています。授賞式では副島浩氏による推薦に続き岡崎氏が「証し」とも言える、誠実かつ精力的に歩んでこられた半生を詳らかにしてくださいまし

た。また、翌朝の日曜聖書講義でも寮生と福音を分かちあう時を持たれました。

吉野氏は、在寮時代から模擬国連の日本代表を務めるなど国際機関を目指し、



バン格拉デシュより吉野氏

学部卒業後に米国で国際関係修士号、経済学修士号、経済学博士号を取得された後、世界銀行のエコノミストとして20年以上、一貫して発展途上国を担当されています。安達寿彦氏が推薦理由を述べられた後、吉野氏は世銀バン格拉デシュ事務所から、「経済成長と貧困削減につながるポイント（1.マクロ経済の安定、2.平和構築、3.雇用の創出・民間企業活動の促進、4.女性のエンパワメント）」を講演されました。

関係者のみなさまに創設趣旨ならびに受賞者の活動にご理解をいただいたこと、多大なるご協力や励ましをいただきましたことを、深く感謝いたします。みなさまと共に、黒崎幸吉賞を育て根づかせていきたいと願っておりますので、引き続き、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 2022年度ホームカミングデイ

黒崎幸吉賞授賞式、講演会に続き、ホームカミングデイが開催されました。今回もまたオンライン配信により遠方の卒業生も参加、視聴していただくことができました。青山学院大学3年生中村真子さんの司会により進行、寮生活動支援を受け、フランスで開催された国際園芸学会に参加、発表した玉川大学大学院修士課程2年の松井共生さんの報告、洗足学園音楽大学1年の井村咲月さんによる歌唱、有志によるAmazing Graceの合唱、スウェーデンのノーベル賞作家ラーゲルレーヴ作「キリス



朗読劇「キリスト伝説集」より「神の宮」

ト伝説集」を下敷きとした朗読劇の発表、ご参加いただいた卒業生からのご挨拶もあり、来し方、現在、行く末、それぞれの活動を知り、つないでゆく機会となりました。

## 第3回「黒崎幸吉賞」推薦お願い

第3回「黒崎幸吉賞」の候補者推薦をお願いいたします。

推薦者は、当寮出身者、寮長・役員経験者および当寮の設立の趣旨を理解する方とします。候補者の対象は、当寮設立の趣旨に照らし次のような方を対象とします。

例1 当寮在籍経験者であり、社会活動・芸術文化等の分野で活躍している方、または活躍が期待される方

例2 当寮の設立の理念を理解し、当寮を支援してこられた方

なお、これまで候補者として挙げた方も適当であれば今回の対象とします。

推薦方法については、所定の推薦書（HPから取得）により、メール添付または登戸学寮千葉恵寮長宛てに一部送付願います。参考資料などは説明を付け推薦書に同封してください（書類一式は返却いたしません）。

締め切り： 2023年6月30日（候補者の絞り込みのための一次締め切り）

2023年8月31日（候補者の同意を得た上、二次締め切り）

問い合わせ： ☒ noborito@gakuryo.or.jp ☎ 044-933-0819

## 3Dプリンターの活用術

原島寛之 東京大学理科一類 2年

去年の暮れ、登戸学寮に3Dプリンターが届いた。談話室で3Dプリンターを寮に導入しようという話が盛り上がり、その利点を文章にまとめて千葉寮長に提出したところ、登戸学寮理事長友人の木下智雄さんにその話が伝わって寄贈していただいたのだ。内心実現するとは思っていなかった。まさに「求めよ、さらば与えられん」の通りである。寮長をはじめ導入に尽力してくださった方々、寄贈してくださった木下さんには感謝してもしきれない。

3Dプリンターの機種はAdventurer4で、他社製品と比べて交換部品が入手しやすいことや、埃の侵入などで故障しにくいことが長所だ。実際、フィラメントをノズルに供給する部分が一度故障してしまっていたが、「エアチューブジョイント」と呼ばれる部品を交換することで素人の僕にも修理できた。

3Dプリンターの利用は、一般に思われているほど難しくない。ネット上に公開されているような3Dモデルをダウンロードして印刷することもできるし、学生向けフリーライセンスのCADソフトで

3Dモデルの設計をして印刷することもできる。工学系の寮生だけでなく、心理や化学を専攻する寮生も3Dプリンターを使っており、今度さらに多くの寮生に利用してもらえよう説明会を開いていく予定だ。掲載しているQRコードのリンク先に、実際の3Dプリンターの活用例をまとめているのでぜひ見ていただきたい。

3Dプリンターは一昔前こそ高価でなかなか手の届かないものであったが、近年価格が下がるにつれ世の中に普及してきた。自分の3Dプリンターを持っているという大学生も珍しくなく、その活用の幅は壊れた日用品の修理や自分の生活に合わせた便利グッズ作り、アウトドアや手芸といった趣味に使うなどさまざまだ。寮生の皆さんには是非3Dプリンターを賢く使って趣味や暮らしを豊かにしてほしい。

3Dプリンター活用例の動画はこちらから▶



## パイプオルガン演奏会

牧真人 東京藝術大学音楽学部 2年

私は、中学2年生から教会の礼拝奏楽者になり、あるパイプオルガンとの出会いから、もっとオルガン音楽を学びたいと思うようになりました。そして、親と母教会の全ての人に支えられ、昨年、藝大オルガン専攻に入学することが出来ました。

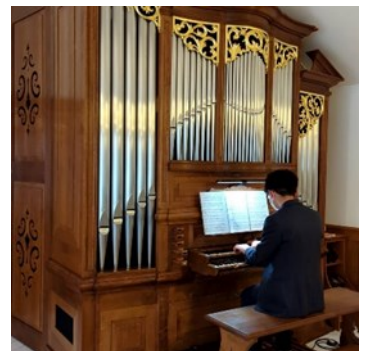
大学では、通常のオルガン個人レッスンに加え、音楽の基礎となるソルフェージュや和声、西洋音楽史、副科ピアノ、また、語学の授業もありました。忙しくはありましたが、様々な新しいことを知り、新しい仲間と知り合い、楽しい1年でした。

また、大学では、定期的な発表の機会が設けられており、そこで日々の練習の成果を発揮します。私は期末試験、そして霊南坂教会のコンサートに、いつか自分の教会で演奏したいと思っていた、バッハの晩年の信仰の大作を演奏することにしました。毎日練習をし、曲の背景や、曲が持つ意味を調べるなど、2月に向けて準備をしています。

期末試験が終わり、最後は霊南坂教会コンサート。自分にとっては初めてのコンサートでした。事前に3回ほどリハーサルの機会があり、オルガンの

特徴を掴み、当日の様子を想像して準備をします。2週間前に学内の試験で弾いているとはいえ、たくさんの聴衆の前で演奏するのはとても緊張します。そのような時、私は自分が演奏する目的をもう一度思い出し、神様に助けてくださいと祈ります。こうして、練習通りの演奏が出来ます。

扉が開き、拍手の中、お客さんの前に立つと、いつも見慣れた寮の友達が最前列で笑顔で座っていました。みんなの顔を見て、少し安心してオルガンに向かうことが出来ました。演奏も自分の実力通り出来たと思います。寮の関係者の方々、そして寮生のみんな、来てくれてありがとうございました。また、新しい1年も精一杯目標に向かって生活しようと思います。



私は寮生活動支援をいただき、今年の春休みに行われた、東京大学の2022年度グローバルキャンパス推進本部ウィンタープログラムに参加しました。私が留学したのは、南オーストラリア州の州都アデレードにあるアデレード大学という大学です。アデレードは、シドニー、キャンベラ、メルボルンなどの東海岸の諸都市に比べると、マイナーな都市です。地中海性気候に属する乾燥地域で、丘陵を覆う枯れ草、街路樹のユーカリ、あちこちの庭先に咲くハイビスカスも相まって、到着してすぐに「異境に来た」と強く感じました。

アデレード大学ウィンタープログラムは、大学附属のEnglish Language Centreでの英語学習、ホストファミリーや現地学生との交流、大学で開校されている通常の講義聴講という三つの活動で構成されていました。ELCでの英語学習は週5日、1日4時間、20人クラス、という形態で実施されました。授業内容は基礎的でしたが、ペアワークとグループワークがほとんどで、先生ともクラスメイトとも常に英語でコミュニケーションをとって

ました。様々なアクティビティが用意されており、特にsmall talk(※)は、私が目標としていた「話し始めるス



ホストファミリーと

ピーキング力」と「話し続けるスピーキング力」の向上に大いに役立ちました。ホストファミリーは5人家族で、両親のDaoとPhuは南ベトナム出身のいわゆるboat people、娘のAlexaとKym、Lynnはアデレードで生まれ育ったアデレーディアンでした。どちらかと言えば物静かなホストファミリーでしたが、だからこそ、small talkの練習が活き、先述のスピーキング力が鍛えられました。

※バス停でバスを待っているときに隣の人に話しかける、カフェでコーヒーを注文するときにバリスタに話しかける、等のシミュレーションをするアクティビティ。初対面の想定なので、踏み込んだ話題は避けつつ、会話を続けなければならない。

## ロンドン滞在記

理事 牛嶋 仁

ロンドンにて在外研究に従事していますので、コロナ対応、物価高騰とストライキ、ウクライナ侵攻の影響、日本の将来についてこちら（各国が近いので、欧州全域が生活圈）での印象を述べます。みな

さんの参考にして

ください。まず、マスクを

している人をほほみかけません。ブレクジット失敗？の検証とともに、ロックダウン等過去の対応についての検証（民主主義、法の支配との関係）が行われています。次に、エネルギーの急激な

高騰は、市民生活を脅かし、写真のような

自治体による援助広報（バスの停留所に掲示）が行われています。物価高は、賃上げの要求となり、交通機関、郵便、病院、大学など広範囲かつ頻繁にストライキが実施されています。フランスでは、年金改革反対のゼネストが継続実施されていますので、調査旅程を変更しなければなりません。

さらにウクライナ侵攻の影響について報道されているもの以外では、在留者・旅行者宛、日本大使館からの連絡があります。スウェーデンのNATO加盟を巡り同国とトルコの軋轢が生じたことから、オランダなど一部の国でのテロ事件に巻き込まれないようにとの注意喚起でした。

最後に、日本の将来について。過去400年の日本の社会経済構造、少子高齢化、コロナ、ウクライナ侵攻、円安、日本の気候変動対策の遅れ（特に、ビジネス・エネルギー産業）等により、日本の衰退（経済力の衰退に伴うグローバル社会におけるプレゼンスの低下。歴史を見れば必然で必ずしも悪いことではない）は、すでに始まっているように、こちらからは、見えます。今後は、日本の次世代以降の安心した生活のため、いかに「公正に」衰退するかについて、私たちが知恵を絞る必要があると考えています。



ロンドン・バーネット区の生活費助成等をお知らせする電光掲示板

©London Borough of Barnet 2022年12月著者撮影

# 理事会・評議員会 報告

## 1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の定例理事会及び評議員懇談会は2023年3月11日（土）午後2:00~3:45にZoom会議形式で開催されました。以下に主要議事内容について報告します。

## 2. 2023年度事業計画及び予算

2023年度事業計画と共に、別表の通り、新年度予算が承認されました。

### 1) 事業計画について

新型コロナウイルスの5類移行対応、黒崎幸吉賞第3年度展開、寮生確保（本年度期初37名目標）、周年寄附から各年度寄附への重点シフト、キャリアコンサルティングも含む寮生生活活動支援、各種インフラの充実、理事会、評議員会、寮友会の相互連絡・連携の強化、卒寮生との各種連携活動を盛り込み、年間行事として聖書講義（年35回）、週日朝礼拝、講演会（随時）、ホームカミングデイ、「方舟」・「学寮ニュース」編集刊行、スポーツ・レクレーション会、寮生寮外活動支援、入寮式・卒寮式、防災訓練、寮生大会2回、クリスマス会などの諸行事を計画する。

### 2) 2023年度予算、資金調達、設備投資、今年度の各種積立金

・2022年度年間実績見込を踏まえつつ、次の主要算定基礎を前提に作成した新年度予算について、理事会で審議の上、了承を得た。事業活動収入については、寮生数を前年度予算より1名減（年平均34名）とし、かつ、一般寄付を今年度予算と同額（350万円）を計上、他方、事業活動支出については、電気・ガス料金及び食料品の上昇を2割程度と想定するなど物価・賃金の動向に加え、正職員の退職金積立を見込むとともに、可能な範囲で経費の削減を行う。その結果、事業活動収支差額は約510万円となり、これから修繕積立金（100万円）、建物再建積立金（370万円）等投資活動支出を差し引くと、当期収支差額がほぼ均衡する。資金調達・設備投資については、洗濯機、衣類用乾燥機等40万円を計上する（電子申請様式に従って

県に提出）。

・なお、物価高騰の動きの中、寮運営の安定維持を図るためには、2024年度以降寮費値上げの検討を開始する必要があるが生じているが、その際、今後の物価・賃金上昇の動向、他の学生寮や学生マンションの動向の推移等を見極める必要がある。このため、今年夏を目途に方向性を見出しつつ、最終的には、11月の理事会において結論を得ることとされた。

## 3. 各種積立金の積立方針の見直し及び財政調整特定資産の創設

本年2月の常任委員会で承認された以下の事項について報告がなされた。

①2022年度収支では、修繕等積立金、建物再建積立金、特定費用準備金（合計520万円）を計画通り実施することに加えて、将来の収支変動に対応する目的で「財政調整特定資産」を創設する（当初積立額300万円）、②2022年度末時点で、特定費用準備金（寮生生活活動支援等）の積立額が、積立限度額（500万円）にほぼ達している現状等から、2023年度以降、当分の間、特定費用準備金は、積立を休止する、③今後、収支相償上剰余金の処理の必要性が生じた場合その他理事会が必要と認める場合には、修繕等積立資産年間積立目標（100万円）に追加して積立てるものとする。

## 4. 特記事項

### 1) 内規改版、各種契約書変更

規定集に財政調整積立資産（特定資産）の掲載、入寮関係契約書の改訂、退職金規程の修正を行った。

### 2) 会議の開催形態

5類平常対応移行後も理事会、評議員会の開催はオンラインと対面参加のハイブリッド形式で行うこととした。



## 2023年度（令和5年度）予算（収支ベース）

2023.03.11

科目	(A)		(B)	
	2022年度予算額	2022年度実績予測額	2023年度予算	(A)と(B)の差異
(単位：円)				
<b>I 事業活動収支の部</b>				
事業活動収入				
基本財産運用収入	0	0	0	0
入寮費収入	1,350,000	1,350,000	1,200,000	-150,000
寮費収入	28,920,000	27,467,900	28,080,000	-840,000
寮費収入(室料)	17,160,000	16,437,600	16,660,000	-500,000
寮費収入(食事代)	6,300,000	5,773,700	6,120,000	-180,000
共益費等寮生徴収金	5,460,000	5,236,600	5,300,000	-160,000
短期宿泊料収入	0	20,000	0	0
寄付金収入	3,500,000	4,600,000	3,500,000	0
寄付金収入(一般)	3,500,000	4,300,000	3,500,000	0
クリスマス献金	0	0	0	0
特別寄付金収入	0	300,000	0	0
雑収入	45,000	83,400	45,000	0
特定費用準備金取崩収入	700,000	420,000	700,000	0
<b>事業活動収入計</b>	<b>34,515,000</b>	<b>33,921,300</b>	<b>33,525,000</b>	<b>-990,000</b>
事業活動支出				
人件費	10,060,000	9,968,304	10,670,000	610,000
賄材料費	3,900,000	3,823,612	4,680,000	780,000
会議費・役員会雑費	130,000	93,272	130,000	0
寮生活動支援・厚生費	1,400,000	886,749	1,150,000	-250,000
旅費交通費・車両費	250,000	124,096	200,000	-50,000
通信運搬費	600,000	523,148	600,000	0
消耗品費・事務用品費	800,000	726,883	850,000	50,000
修繕費・什器備品費	900,000	800,000	800,000	-100,000
方舟刊行・印刷費	1,050,000	1,080,000	1,100,000	50,000
講演会等諸雑費	555,000	420,000	500,000	-55,000
水道光熱費	3,115,000	3,293,554	3,615,000	500,000
広報費	1,200,000	875,431	1,000,000	-200,000
図書新聞費	80,000	134,600	85,000	5,000
支払報酬料	1,100,000	824,366	1,000,000	-100,000
災害保険料・防災費	700,000	523,017	680,000	-20,000
租税公課	350,000	396,900	400,000	50,000
支払手数料・その他	1,110,000	746,000	960,000	-150,000
<b>事業活動支出計</b>	<b>27,300,000</b>	<b>25,239,932</b>	<b>28,420,000</b>	<b>1,120,000</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>7,215,000</b>	<b>8,681,368</b>	<b>5,105,000</b>	<b>-2,110,000</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>				
投資活動収入	0	0	0	0
修繕等特定積立資産取崩収入	0	0	0	0
投資活動支出	5,800,000	8,453,501	5,100,000	-700,000
特定資産取得支出	5,200,000	8,120,000	4,700,000	-500,000
建物再建特定積立資産取得支出	3,700,000	3,700,000	3,700,000	0
修繕等特定積立資産取得支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
特定費用準備金取得支出	500,000	420,000	0	-500,000
財政調整積立資産取得支出	0	3,000,000	0	0
固定資産取得支出	600,000	333,501	400,000	-200,000
建物取得支出	0	0	0	0
建物付属設備取得支出	0	0	0	0
什器備品取得支出	600,000	333,501	400,000	-200,000
<b>投資活動収支差額</b>	<b>-5,800,000</b>	<b>-8,453,501</b>	<b>-5,100,000</b>	<b>700,000</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>1,415,000</b>	<b>227,867</b>	<b>5,000</b>	<b>-1,410,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>8,979,531</b>	<b>8,979,531</b>	<b>9,207,398</b>	<b>227,867</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>10,394,531</b>	<b>9,207,398</b>	<b>9,212,398</b>	<b>-1,182,133</b>

## 卒寮生インタビュー その4 谷 信介

在寮期間：1979～1984

### 一学寮とのご縁は？

私の母とみ子は神戸の女学校時代黒崎恵美様（後の大島智夫寮長夫人）の友人でした。母はそこでご縁で、「わが家は大所帯だから、一人ぐらいたんたかなる」というご厚意のもと黒崎先生の御自宅に居候させていただきました。その繋がりでは1979年に大島先生ご夫妻の指導のもと学寮での生活が始まり、84年春までお世話になりました。

高校時代精神的苦闘を経験しましたが、禅僧である内山興正老師に出逢い、それが衝撃的でこういうお坊さんになりたいと思いました。それが後に得度する契機となり、入寮の際も老師は無教会の寮に入ることを喜び「キリスト教を勉強しなさい」と励ましてくださいました。大学進学についても悩みましたが、当時原宿にあった厚生省（現在の厚生労働省）の委託で創設された日本社会事業大学に入学。内山老師のご助言もあり、福祉を慈悲の活動として受け止めたのです。

### 一寮生活とその仲間たちとは？

学寮では大島先生の温かくも厳しいご指導のもとで生活を送り、無教会の伝統のなか道徳的に厳格な雰囲気心が心に刻まれています。先月学寮時代の友人たちとの同期会を行い、同期6人で旧交をあたためることができました。大学や高校の教員もあり、今の学生はお行儀がよいと話していました。世間の大学生と違って自分たちは寮の規則（聖書講義出席は義務等）が厳しく、その反動からかはじめていたなあと懐かしく振り返り、そんな私たちに大島先生は良く向き合ってくれたと話が盛り上がりました。私も大学時代はもっぱらバンド活動ばかりしていて、ライブで朝帰りは頻繁でした。

### 一仕事の思い出は？

大学3年のとき、川崎市麻生区福祉事務所で実習、そのときによく福祉の道に目を向けるようになり、当時川崎市の政策立案に関わっていたゼミの担当教授のもと、1年間卒論を書くため福祉事務所に通い、そこでご縁もあり、川崎市社会福祉協議会に入り、2008年まで働きました。その後、父の



同期会の方々と（左端が谷信介氏）

実家である寺の住職を勤める叔父の推薦により2008年に築地本願寺に入寺、翌年3月に得度しました。2009年からは東京の特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団入職、生活困窮者の支援に勤め、今日に至ります。仕事の思い出としては社協時代のことが主で、一つは阪神淡路大震災のとき、現地に入り、現場でリーダーを務めたことです。神戸は私の故郷なので懸命でした。もう一つは、川崎市は歴史的に外国人市民との共生に力をいれており、2001年神奈川県が全社協より指定されて全国ボランティアフェスティバルを開催した際、川崎市で「多文化共生とコミュニティ」というテーマでフェスティバルを開催、予想を上回る来場者でした。当時、川崎市社協としては外国人市民との協働は過去に前例がなく、初めてのことでした。ともに大変でしたが、今思うとよくやれたなあと思います。

### 一社会福祉と僧侶の関わりは？

僧侶になったことで、大島先生や学寮の皆様に向き合えないと思っていましたが、OB会の場でお話しさせていただき、大島先生も認めてくださいました。現在は浄土真宗本願寺派の教師として「自死・自殺に向き合う僧侶の会」と日本臨床宗教師会認定臨床宗教師として活動しています。今日、無宗教の宗教とでも言いますか、パワースポット等スピリチュアルブームの中、布教伝道しないというスピリチュアルケアを主として行っています。僧侶はソーシャルワークとは別の視点で、人々の魂の痛み、困窮に寄り添い支援を進めることができると思っています。登戸学寮においても、ボランティアをしたいという学生さんがいれば、何らかお手伝いできればと願っています。

同期会を行って振り返ると大島先生ご夫妻、江口さん、浜崎さん、小野さんそして寮の仲間を支えられて学生生活を送れ、感謝の思いで一杯です。

# 登戸学寮 寮友会

## 「寮友会」とは

本会は寮生活を経験したOBOGで構成され、創立者黒崎幸吉先生の建寮の趣旨を尊重し、会員相互の親睦と在寮生との交流、支援等を行うとともに、登戸学寮が末永く存続し続けるために必要な諸事業を支援することを目的としています。

### ■寮友会の最近の活動

「在寮生との交流、支援（「寮友会会則」第二条の会の目的）の趣旨に照らし、寮友会として在寮生への支援を具体化することを役員会で検討し、以下の取り組みをスタートしました。

### 在寮生への支援

学寮のキャリアフォーラム（在寮生に対し、卒業生等が現在の職業・生活等の体験談を話す会。将来の姿をイメージし、卒業後の職業や人生を考える資とすることを目的とする）の講師として、各分野の卒業生をお招きするお手伝いをしています。最近では、石川会長の紹介により、高橋陽介氏（漫画家）・春口達磨氏（松竹におつとめで映画事業等に携わる）という二人の卒業生をお招きしました。

### 卒業生への支援

卒業を前にした寮生に、寮友会から「卒業記念品」を贈呈しています。卒業後の人生に裨益する品として、今春は新渡戸稲造『逆境を越えてゆく者へ』を各卒業生にプレゼントしました。

### 入寮生への支援

大学生活に裨益する品として、2023年度の新入寮生に小林秀雄『学生との対話』をプレゼントしました。

上記にとどまらず、いろいろな形での寮生への支援を継続して参ります。「方舟」63号に掲載した通り、2023年4月1日時点の役員は以下の通りです。会長：石川光。副会長：岸本尚毅。執行役：古角隆（会計）、北村寛、副島浩、古角修。顧問：坂内宗男、副島茂。

### ■在寮経験者の住所等の情報について

寮友会及び学寮宛にご提供いただいた住所等の情報は個人情報として管理しています。寮友会会員間の連絡等のため当該情報の利用をご希望の方は役員までご照会ください（窓口：岸本gakuryomeibo@gmail.com）。なお、情報管理の観点から、情報の用途、利用者等を確認させていただくことがあります。

### ■その他（お知らせ）

登戸学寮においては「黒崎幸吉賞」（在寮経験者で社会活動・芸術文化等の分野で活躍している方、または活躍が期待される方。当寮の設立の理念を理解し、当寮を支援してこられた方などを表彰し、謝意を表明する）の候補を募集しています（期限6月末）。寮友会の関係者で、推薦に適する候補のお心当たりがありましたら寮友会（窓口：岸本gakuryomeibo@gmail.com）または学寮までご連絡ください。

### ■召天された卒業生

小林道雄様 2023年2月（1958年入寮）

#### コラム — 永井荷風の俳句

俳人 岸本尚毅（学寮OB）

荷風に「元日やひそかにをがむ父の墓」という俳句があります。昭和十年、五十七歳の吟。明治四十五年、荷風の父が脳卒中で倒れたとき、荷風は芸者と箱根の温泉宿に泊まっていました。急遽帰宅したものの、意識の戻らぬまま父は逝去。後年「わたくしの如き子がいなかったなら、父母の晩年はなお一層幸福であったであろう」と記しています。「ひそかにをがむ」に、荷風の悔恨の思いが表れています。（参考文献：岸本尚毅『文豪と俳句』集英社新書）

## 寄附者ご芳名

ご支援へのお礼とご報告 登戸学寮をお心に覚えていただき、いつもご支援を賜り心から感謝申し上げます。ここにご芳名を記してお礼申し上げます。

2022年9月1日から2023年3月31日まで（敬称略） 個人170名・13団体、総件数230件

### （個人）170名

相澤 忠一、青木 幹夫、浅香 力、浅野 攝郎、  
阿部 光成、荒木 仁子、有賀 実男、有賀 進、  
石川 知生、石原 昌武、石原 能行、伊藤 直道、  
伊藤 康子、稲永 丈夫、井上 眞一・真理、  
井村 祥隆、岩沙 克次、岩田 堯、上田 明子、  
内坂 晃、大泉 善規、大内 信一、大江 昌嗣、  
大川 四郎、大島 董、大島 正伸、大城 ヨシ子、  
太田 源左衛門、大谷 陽・翠、大山 綱夫、  
岡崎 新太郎、興津 修司、奥田 信夫、  
小田部 哲哉、恩田 美和子、賀久 はつ、  
金井 直子、金沢 信治、亀谷 勉、川島 重成、  
岸本 尚毅、北爪 文義、北村 寛、木下 真理、  
木下 智雄、木村 護郎クリストフ、木村 直子、  
木村 秀夫、清永 丈太、櫛田 俊明、久保 靖彦、  
久保田 修、熊川 忠、栗栖 陽子、黒崎 光子、  
黒崎 稔、Glodt 恵子、小河原 貞一、小島 拓人、  
児玉 伸彦、木幡 藤子、斎藤 顯、齋藤 英里、  
酒井 迪郎、笹井 岩男、笹岡 素子、  
佐々木 洋子、笹生 義美、佐藤 勝輝、  
佐藤 全弘、佐野 光郎、佐野 好則、  
柴田 真之介、清水 亨、荘保 達雄、白石 光一、  
白方 誠彌、白方 勇一、新川 泉、鈴木 健司、  
鈴木 守、須藤 浩一郎、鷺見 誠一・八重子、

### （団体）13団体

1979年同期会、あだたら聖書集会、  
大阪聖書研究会、国立聖書研究会、  
千葉聖書集会、中央聖書研究会、

副島 茂、副島 浩、曾我 訓久、高岡 健二、  
高木 謙次、高木 千賀子、高木 博義、  
高田 暁治郎、高田 秀樹・知子、高橋 賢治、  
高松 均、高柳 博一、高山 久郎、瀧山 晃弘、  
田口 宗一、武井 陽一、竹内 朝日郎、  
竹内 栄理、竹内 弘之、武富 保、多田 義国、  
田仲 達雄、田家 従子、丹野 武宣、趙 顕建、  
月岡 信裕、津崎 哲雄、徳光 猛、土橋 奈央、  
富井 直子、富永 尚、友寄 隆房、永井 和子、  
中島 康孝、南雲 清美、西永 頌、西野 勝、  
西村 真、野崎 寧、野田 弘、野々瀬 協子、  
野々瀬 浩司、羽賀 道信、間 榮、橋内 武、  
橋本 結衣、花房 雅子、早川 真・結美、  
原田 武信、坂内 宗男、日暮 眞、秀村 研二、  
福岡 和子、福島 穆、福田 由美子、古角 隆、  
細貝 昭吾、本田 圭、前川 契子、正村 邦男、  
増田 高子、松井 共生、三浦 一幸、  
三浦 永光・安子、三田 洋子、三矢 恵津、  
三宅 順子、三宅 美枝子、宮崎 修次、宮崎 裕明、  
武藤 陽一、安田 裕、矢田部 千佳子、  
矢野 那奈子、山口 和彦、山本 鐵子、  
山本 浩、山本 律子、吉野 隆治、吉野 裕、  
米村 英二・幸子、我妻 耕一、鷺崎 安久、  
匿名 3名

徳島聖書キリスト集会、那覇聖書研究会、  
浜松聖書集会、阪神聖書研究会、  
福岡聖書研究会、無教会新宿集会、山形聖書集会

【編集後記】多士済々なのか玉石混交なのか、今年度は12人の原石が全寮生の約1/3を占めることになり、男子寮に空室はなくなりました。群雄割拠となるか四海兄弟となるか、今後如何に動いていくのでしょうか。しかしこれまで同様、付和雷同は皆無、独立独歩に唯我独尊、時代の最先端をユニークに歩む人々が絶対多数。学寮生活をとおして、原石が研磨され、多種多様な面が磨き出され、光り輝き、世の光となる人々が安定多数となりますよう願っています。前号まで編集の労をとってくださっていた織田さんに第2子(次女)が誕生しました。代替しました編集作業ですが、多々ある至らぬ点はなにとぞご容赦くださいますようお願い申し上げます(M.C)。

公益財団法人 登戸学寮

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 6-6-1

☎044-933-0819 ✉ noborito@gakuryo.or.jp

発行人 小島拓人

編集委員 千葉 恵、千葉美佐子、鷺見八重子、  
岸本尚毅、大谷 恵、早川 嗣、織田千尋

発行日 2023年5月10日